公開セミナーアンケートのご質問に対して講師が回答いたします。

ご質問１　はばたき園の活動をもっと詳しく知りたい。実際通所するまでにどのくらい時間がかかるの？定型発達のきょうだい児がいる時は当事者も親もきょうだい児も大変じゃないの？通所対象となる条件はあるの？

回答　　通所までに要する期間は受給者証の取得状況や入園後にお子さんが通われるクラス（状態像別になっています）の空き状況により異なり、個別対応となりますのでご相談ください（これまでは遅くとも申込日の次年度の春からはご利用いただいております)。

発達に遅れがあり、療育が必要とされたお子さんに対し、東大阪市が受給者証発行を認めた場合に通所支援の対象となります。基本的に、はばたき園は週 2 回の親子通園が可能な方が対象になります。就労やご家族の介護等の事情により、親子通園が難しい場合は、園として検討させていただいたうえで、単独通園のみで対応する場合もあります。

はばたき園での集団生活を通し、周りとの相互的な関わりの中で、通われているお子さんだけでなく、ご家族もエンパワメントされる事により、日々の子育てを楽しみ、地域社会の中で充実した日々を送れるよう支援していくよう心掛けております。

ご質問２　重度の知的障害のある子どもを担当した際、どう手立てをしてあげたらいいのか、どう捉えて見通しを持ってかかわったら良いのか、ということが中々むずかしく、自分の知識量の少なさに反省しました。勉強しようと思い、本屋に行ったり調べても、幼児期重度の子に対する支援本は見つからず、0 歳児保育の本で参考にかかわりましたが、もっと色んな手立てを勉強したいと思いました。

勉強する際におすすめの勉強法(資格などでも)や、今回のようなｾﾐﾅｰの通うプランなどがもしあれば教えていただきたいです

回答　発達は領域（運動・言語・対人関係・基本的生活習慣・遊びなど）ごとに段階があります。支援を考える時は、子どもの発達段階を評価し、スモールステップの課題を設定することが大切と考えています。その子の状態像にぴったり合った研修会や参考書を探すことは難しいかもしれませんが、どのようなテーマの研修会や参考書も支援を考える時のヒントになるものはあると思います。また、勉強や実践を通して学んだことや感じたことを一緒に確認できる支援者同士のつながりを作っていくことも効果的だと思いますので、支援者同士で交流する要素がある研修や実習などに参加することも良いと思います。当法人といたしましても、これからそういった機会を創出していきたいと考えておりますので、ぜひご参加ください。

ご質問３　重度の子には良い面がたくさんあるが、軽度や情緒面についての配慮はどうされますか？自己肯定感が高すぎてできると自信を持っているが、実際はできていないという人（30～40 代）へのかかわり方を知りたいです。資料あるようにほめるでいいのでしょうか？

回答　軽度の方や発達障害の方はご本人の理解度が高いことや、周りに過敏であることから、特に情緒面については揺れやすい傾向が見られます。揺れている場面においては傾聴や状況整理、観察に留め、安定している時にその場面を整理しつつ、振り返りの機会を重ねる、そのような支援が重要であると考えます。
また、自己肯定感の高さについては、ご本人の達成したことや実現してきたことが根拠となっていればよいですが、経験の乏しさ、また対人不安や恐怖、自己の脆弱性等による自己防衛の結果生じることがあります。まずは、ご本人の気持ちに寄り添いながら、仕事や作業についてミスを一緒に受け止めてください。そのうえで、ニーズや目標を引き出しながら、改善点を具体的に協同で考えていくことが大切だと思います。